

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	監査論A (AuditingA)	授業コード	E008701
担当教員名	工藤 順一		
配当学年	3	開講期	前期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	最新の「監査基準」を持参してください。インターネット等でも検索可能です。		
受講心得	講義では、「監査基準」を元に進めていきますので、基準と照らし合わせながら、監査の問題点を考えてください。		
教科書	最初の講義で指定します。		
参考文献及び指定図書	監査論テキスト 第4版 山浦久司著 中央会経済社 会計監査論 第5版 山浦久司著 中央経済社		
関連科目	会社法 財務諸表論 原価計算論 経営学入門		

授業の目的	「監査論」は資格試験の中でも、公認会計士試験にしかない受験科目です。監査論を学ぶことは、公認会計士を目指す人だけでなく、これから公務員を目指す人や企業に就職する人にとってもとても有用です。監査論の背景にある考え方をしっかり理解するようにしてください。
授業の概要	公認会計士試験の資格取得を意識しつつ、社会人となって監査に臨んだ時も役に立つような授業にしたいと思います。まずは、監査論および会社法等の基礎的な知識を身につけましょう。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：会計監査のフレームワーク 会計監査の定義について、財務諸表監査としての会計監査の全体図を説明します。この中で、二重責任の原則について学習します。	配布資料 演習の課題と解答例
第2週：監査人の独立性と会計監査と周辺概念 財務諸表監査においては、監査人の独立性が問題となりますが、その意義や必要性について学びます。また、監査と保証業務の関係や監査の機能的な限界について学習します。	配布資料 演習の課題と解答例
第3週：監査の種類 情報監査、実態監査といった監査の種類を学習します。この中で粉飾や誤謬に対する「期待ギャップ」と監査基準改正の経緯等について学習します。	配布資料 演習の課題と解答例
第4週：会計監査の必要性 会計監査が成立するための環境条件について、利害の相克や情報の重要性・複雑性・遠隔性を細かく学習していきます。同時に監査の対象となる財務諸表の性質について学びます。	配布資料 演習の課題と解答例
第5週：会計監査の起源 株式会社制度が確立する前後に分けて、ヨーロッパ諸国とアメリカにおける会計監査の歴史を学習します。また、国際化に伴う会計監査制度の変遷について学習します。	配布資料 演習の課題と解答例
第6週：金融商品取引法監査制度 金融商品取引法の概要を学習し、この法律のもとでの監査制度の目的を学びます。また顕著な粉飾事件を紹介し、これらの事件に対して監査制度がどう対応してきたかを学びます。	配布資料 演習の課題と解答例
第7週：職業監査の成立と職業規範の意味 公認会計士や監査法人が会計監査を職業として実施することをなぜ社会は受け入れるのか、その要件を見ていくとともに公認会計士法の意義を学びます。	配布資料 演習の課題と解答例
第8週：監査基準 一般基準 監査基準の前文および監査基準の構成を見ていきながら、日本の基準とアメリカの基準との異同を見ていきます。また、一般基準の中で、監査人に求められている専門能力について学びます。	配布資料 演習の課題と解答例
第9週：公正不偏の態度と独立性の保持 一般基準2に掲げられている監査人の公正不偏の態度の意味や独立性について細かく学習していきます。	配布資料 演習の課題と解答例
第10週：正当な注意と職業的懐疑心	

一般基準3に掲げられている監査人の正当な注意や職業的懐疑心について学習します。また、正当な注意によって保つべき品質管理を学びます。		配布資料 演習の課題と解答例
第11週：監査人の法的責任 監査人の法的責任について、民事責任、刑事責任、行政処分等に分けて学びます。さらに、金融商品取引法や会社法上における監査人の責任についても学習します。		配布資料 演習の課題と解答例
第12週：会計監査の実施 会計監査の基本的な実施プロセスについて学習します。まず監査契約を締結し、次に監査計画を策定し手続きを適用して監査証拠を集めていくプロセスを学習します。		配布資料 演習の課題と解答例
第13週：監査要点 監査人は、監査要点を設定し、これらに適合した十分かつ適切な監査証拠を入手しなければなりません。ここでは、監査要点について、監査意見形成とどうつながっているのか、監査要点の事例等をとりあげながら学習していきます。		配布資料 演習の課題と解答例
第14週：監査手続の概念 監査手続とは、監査証拠の入手のための個々の監査手法（監査技術）の適用方法や手順をいいますが、これら監査手続の種類について学習します。		配布資料 演習の課題と解答例
第15週：監査証拠 監査証拠とは、監査要点を立証するために監査人が入手するすべての裏付け証拠をいいますが、これら監査証拠の種類や量的質的十分性を学習します。		配布資料 演習の課題と解答例
第16週：期末試験 すべての講義に関して総復習の意味でのテストを行います。		配布試験資料 試験と解答例
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	新聞記事では、監査に関する記事をよく見かけます。それは、粉飾決算等の記事だけを指すものではありません。いろいろな記事が監査とつながっています。まずは関心を持ってくださいね。
【知識・理解】	監査論の知識は、公認会計士だけでなく、官庁や企業においても役に立ちます。監査論を理解するためには会社のことを理解するとともに、なぜ監査が必要かということを理解する必要がありますからです。
【技能・表現・コミュニケーション】	授業の中で、小テストを通じて、監査論で学んだ考え方を表現していただきます。実質的には同じ内容であっても表現方法が異なると異なってきます。いろいろな表現方法を学習しましょう。
【思考・判断・創造】	常に、なぜ？という考え方を身につけてください。知識をそのまま覚えることも大切ですが、なぜそうなっているのかをいつも考えていると覚えるのも楽になります。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	30点			
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		30点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		30点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点		
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	原則として、毎回講義の初めに課題を出します。提出をもって出席に代えますので、遅刻せずに課題を解いて提出してください。達成水準の目安は以下の通りです。Sレベル:達成目標を満たしている。Aレベル:ほぼ満たしている。Bレベル:なんとか満たしている。Cレベル:一部分満たしている。
発表・その他 (無形成果)	授業の中で適宜質問します。質問に対する解答については、成績評価において加点することがあります。